

..... 図書館の動き

第47回国立大学図書館協議会総会

平成12年6月28日、29日の両日、金沢市において全国の国立大学附属図書館長、事務部課長約300余名が出席して開催された。全体会議に続き、二つの分科会が開かれ、第1分科会（予算・人事）では、教官当たり積算校費の改善に伴う図書館の財政基盤の確立方策、専門職員の配置、資料共同利用センター構想の具体化について、また、第2分科会（運営・サービス）では、大学情報と図書館の役割、ネットワークの不正使用問題、図書館における教育支援サービスのあり方、遡及入力、ドキュメント・デリバリーシステムの推進方策について熱心な討議が行われた。また、研究集会においては、図書館職員による7件の発表が行われた。全体会議では、文部省所管事項説明のほか、外国雑誌の高騰など学術雑誌問題についての意見交換、文部大臣への要望事項、本年度事業計画等、分科会の取りまとめ等について協議が行われた。

共通閲覧証が廃止になりました

標記第47回総会において共通閲覧証の廃止が承認され、関連する利用実施要項が改正されました。これにより、大学院生を含む研究者が他の国立大学図書館との相互利用に際しては、従来の共通閲覧証の提示から、学生証、身分証明書の提示へと変更になります。

全学共通科目「情報探索入門」に協議会賞！

標記47回総会で、京都大学に国立大学図書館協議会賞が授与されました。

平成12年度は東京大学附属図書館CD版利用案内作成ワーキンググループの「ビデオCDインターネット版図書館利用案内『まると図書館』作成活動」と京都大学附属図書館「情報探索入門」演習支援ワーキンググループの「京都大学附属図書館における利用者教育『情報探索・情報収集』の活動」が何れも図書館活動における功績として与えられました。

今回受賞した「利用者教育の活動」は平成10年4月から開講された全学共通科目「情報探索入門」が対象となっています。全国の国立大学ではあまり例のない本格的な図書館利用者教育は好評の中、今年で3回目を迎えています。教官と職員が共同して行う講義は情報活用について学生に教育する必要性と職員自身のレベルアップ、図書館の存在価値を高めるために実施されたものです。情報活用に関する各講義に対応して全学の図書館職員15名が参加して、演習を担当する形の図書館活動が今回、功績となって受賞につながったものと言えます。

国立大学図書館協議会賞は東京大学附属図書館長であった岸本英夫博士の記念基金により設けられた「岸本賞」として、名古屋大学の「ロシア・ソヴィエト人名辞典訳編原稿」が昭和41年（1966）に与えられたのが始まりです。京都大学は、昭和49年（1974）に「京都大学数理解析研究所におけるWIC活動」が参加した図書室職員（代表：板東瑞昭氏）に与えられました。また昭和60年（1985）に「京大『大惣本』購入事情の考察」が附属図書館の廣庭基介氏に与えられています。京都大学にとっては、今回が3回目の受賞にあたります。

7月25日には附属図書館で講義を担当された先生方と演習を担当した職員を囲み総長をはじめ、全学の図書系職員が集まり祝賀会が行われました。

連歌の世界

電子図書館で公開された貴重書

「2000年京都電子図書館国際会議」記念展示会

開催期間 : 平成12年11月1日(水)~11月17日(金)〔3日休館〕
開催時間 : 午前10時~午後5時(入場は4時半まで)
会場 : 京都大学附属図書館3階展示ホール 入場無料

目次

豊かな人間社会の構築に貢献することを目指して	1
附属図書館宇治分館の設置にあたって	3
2000年京都電子図書館国際会議について	4
外国雑誌目次データベース(SwetScan)を有効に使いませんか!	6
京都大学図書館百年 京大草創期の司書たち	9
アメリカ大学図書館の旅 ハーバード大学	12
附属図書館資料紹介	15
医学図書館の相互利用サービス シリーズ「京都大学図書室巡り」	16
蔵書統計(平成12年3月31日現在)	17
教官寄贈図書一覧	18
図書館の動き	
第47回国大図協総会、共通閲覧証廃止、「情報探索入門」に協議会賞	19

編集後記

6月末から7月にかけて、図書事務改善検討部会、管理業務検討ワーキング、外国雑誌の重複調整、電子図書館国際会議の準備、中国書の入力、地域目録講習会、それに会計監査、商議会、研究開発室会議などがありました。こんな中で全集ものが網羅された「片田文庫」14,000冊の整理が完了し、2階の開架室にデビューします。また、先生方と職員の間で行われた「全学共通科目・情報探索入門」に国立大学図書館協議会賞が贈られました。ちょっと息切れ気味の職員一同、久しぶりに充実感を味わっている次第です。